

# 商 法

平成20年1月6日(日) 13:00~14:30

## 解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚(各問について1枚)、下書き用紙は1枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答用紙は、**第1問**と**第2問**とで異なります。それぞれ正しい用紙に解答して下さい。
5. 解答は横書きにして、各問につき1枚の解答用紙(裏面使用も可)に収めて下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
6. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
7. 問題の内容に関する質問には応じません。
8. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
9. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

## 〔第1問〕（配点：50点）

老舗の食品メーカーA株式会社では、主力の高級食品についての偽装など多くの不祥事が発覚し、代表取締役Bをはじめとして業務担当取締役の全員が辞任する羽目になった。残留した取締役C～EはいずれもA社の経営に専念できる状態ではなかったため、Cらは緊急に取締役会を開催し、監査役Fの意見も聞きつつ、①とりあえずCを代表取締役とするが、業務執行には当たらない、②開発部長Gを社長に抜擢し、混乱の収拾と社内体制の立て直しに当たらせる、ことを決定した。同時に、次の定時株主総会でGを取締役候補とすることも合意した。Gは「取締役ではない社長」という自分の地位を面白がって、名刺に「非取締役社長」と肩書きを入れ、自分のブログでもこのことを面白おかしく解説していた。

Gは、A社のイメージを一新し、悪い世評を払拭するイベントとして、「新商品コンテスト」を定期的に行い、優秀者の作品を商品化することを計画した。Gはただちに広告代理店Hに企画・広告を依頼し「予算は気にしないでいいからなるべく派手にしてくれ。」と注文した。

第一回のコンテストは成功し、マスコミ等でも好意的に取り上げられた。しかし、A社内からは、Gの独断に反発する声も上がった。数ヶ月後の株主総会では、Gは取締役に選任されたが、これに引き続き行われた取締役会では、Gを代表取締役とする決議は行われなかった。Gは怒り「私のやり方が気に入らないなら辞任する！」として他の取締役と対立した。この対立は結局収まらず、約半年後、Gは辞任した。A社はただちにHに企画広告の中止を通告した。

しかしHは「継続的な企画ということで引き受けた、そちらの都合で中止するならば、今までの報酬と経費に加え、違約金を支払ってほしい。」と請求してきた。A社は「このことはGが独断でやったことだ。Gは取締役ですらなかった。」と反論している。

A社はHの請求に応じなければならないか、論じなさい。

## 〔第2問〕（配点：50点）

上記の事例で、Gは取締役会で対立した頃から、会社を辞めて独立することを考えるようになった。そこでGは、コンテストの担当者だったA社開発部長Jおよびコンテストの優勝者で商品を共同開発する予定だったKとひそかに連絡を取り、3人で新規事業を起こすことにした。この計画に従い、Kは合同会社Lを設立し、Jの協力で商品の開発を開始した。その後辞任したGとJもL社に入社し、いずれも業務執行社員となった。L社はまもなく新商品の販売を開始し、順調に売上を伸ばしていった。このことによりA社の売上は明らかに悪くなった。

Cらは「裏切りだ」と怒り、G・J・K・Lの誰かに損害賠償を請求しようと考えた。A社はこのうちの誰かに何らかの理由で損害賠償を請求することは可能か、論じなさい。

以上